[告発人 野村]

僕は、川崎さんを信用していない。

[川崎捜査官]

いや、別に、分かりました。分かりました。

[告発人 野村]

居て欲しくない。

[川崎捜査官]

お話、聞くのも、駄目ですか？お話、一緒に聞くのも、駄目ですか？

[告発人 野村]

それは貴方が決めることだから、僕としては、居て欲しくない。

[全員]

（しばらく無言）

[告発人 野村]

あなたが担当なんですか？なんで、担当なんですか？

[川崎捜査官]

同じ係りだから、桜井と。同じ係だからです。

[告発人 野村]

何の係りですか？

[川崎捜査官]

知能犯事件だとか、暴力団事件だとか、薬物事件担当に捜査する係りだからです。

[告発人 野村]

あのね・・・

[川崎捜査官]

はい。

[告発人 野村]

そういう事件で、ものすごく少ないんですよね？

それだけなんですか？あなたの担当は。

[川崎捜査官]

それだけっていうと？

[告発人 野村]

例えば・・・倶知安警察署・・・

（スマホで何か調べる）

これ、４月の倶知安署管内のデータで、４月だけで、窃盗１０・・・これ、認知件数でしょうけどね。

窃盗１８、粗暴５、その他刑法犯３、明らかに、その他刑法犯の中に（知能犯が）入ってるんでしょう。ただ、明らかに少ないですね。

[川崎捜査官]

窃盗は、やっぱりね、刑事事件の中でも一番多い、って言われてるだけあるんだよね。窃盗事件ってのは、やっぱ多いですけど。

[告発人 野村]

あなた、これだけをやってるんですか？

あなた、たしか僕に対してね、僕が「何件やってるんですか？」って聞いても、答えなかったような気がしますけど。件数についてだって、公開されている通り、どれくらいの件数があるというのは、告知して当たり前のことですよ。

[川崎捜査官]

それはね、把握してなくて、申し訳ありませんでした。

[告発人 野村]

あなた、それを言わなくて当たり前みたいな顔をしてたでしょ？

[川崎捜査官]

ただ今、ね、その話じゃないと思うんで。

[告発人 野村]

僕は、あなたに居て欲しくないから。

他の人にも言いましたけど。僕の妖怪アンテナが立った。あなたが入ったらね。（不明）がなくなるからね、「入って欲しくない」と、「入れるな、こいつは」と、いう風に。僕の妖怪アンテナが立ったんですよ。相手の立場にたったら、面白くないですよ。僕があなたの立場だったらね。でもね、相手の言うことは尊重すべきじゃないんですか？大体、自分が担当だっていうことの方が、優先するものなんですか？

[川崎捜査官]

もし、当時の私の対応で、野村さんの気分害されてしまったということであれば、それは申し訳ありませんでした。

[告発人 野村]

僕、聞いてるのは、例えば、女性の性被害の事件で「男の人に言うのは嫌だ」というケースはあるでしょう。だから、変えるでしょ？今回のケースは、誰もがそう言うものじゃない。でも、「こんなことに、こんな言い方されるんであれば、この人は信用できない」「変えて欲しい」と言われるケースっていうは、いろんなケースにある話しであって、公務員だからっていうことじゃなくて、僕は「公務員だから何を言っていいんだ」という気は、さらさらなくで、公務員であろうが、どっかの民間のオペレーターであろうがね、合う合わないってありますよね？もしくは、「こんなこと言ってしまったから、気分悪くさせちゃったな」と、「俺が担当しない方がいいな」っていうケースっていうのは、ある。それは、やっぱ、引くべきだと思う、僕は、担当者が。

[川崎捜査官]

じゃ、いいです。分かりました。ありがとうございました。

[告発人 野村]

すみませんね。僕は、しょうもない交通事故で、捜査書類を、供述調書を偽造されたことがある。それは、後から、行くとこまで行こうと思って、争ってる裁判の中で、向こうが、検察警察が出してきて発覚したけどね。偽造どころか、ちょっと書

き換えたどころか、何も執ってないのに、勝手に、書き起こしてね。
ふてぶてしく、罪を認めずに、開き直ってるかのような、供述調書を書かれたことがある。だから、あんまり警察官を信用してないんです。さっき、僕が刑事課に・・・刑事３課？
[桜井警部補]
３課、３課。
[告発人 野村]
しつこく僕が言ってるのは、結局、あなた方は刑事訴訟法４７条を盾にして、一切、相手に対して、文書を渡そうとしないわけですよ。
伊達署の警察官が（不明）なくなったのも、刑事訴訟法４７条ですよ。１回、受理しちゃったからね。警察村が「返すな」と。それを一警察官に言ったって、埒があかないことは百も二百も分かってるよ。多分、警察庁に言ったって、いまの警察庁長官に言ったって、答えようとしないさ。おかしいでしょうと言ったって、誰も答えないよ。計画書をね。
でも、それが諸悪の根源でね、それがあるから、好き勝手やっても、絶対にばれない。警察官が捜査書類を偽造しようが、告発状とかを、もみ消そうが。何しようが、一切、表沙汰にならない、という状態が、引き起こされてると思っているから、人によって、「この人は信用できない」っていうこと。ちょっと申し訳ないけど、させてもらいました。
申し訳ないけど、あなたの同僚に・・・
[桜井警部補]
先日の電話・・・先日の電話ですね。
[告発人 野村]
先日の電話のやり取りの中で、「どうせ、こいつ分かんない」と思ったら、僕は川崎さんは、いい加減な理由で、終わらせようとする人だという風に、僕は感じた。
いい加減な理由で、そういうことを平気でやってる人だと、僕は感じ取りました。